
ある人物の実験と生涯 (仮題)

Tony Lewis

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある人物の実験と生涯（仮題）

【Nコード】

N3663Y

【作者名】

Tony Lewis

【あらすじ】

ちよつと未来で起きる日常と非日常の話。自身の経験に基づいて書いてますので実話と作り話がある混ざってます。少々、チートとご都合主義も入るかもしれませんが、あと、ジャンルのフィアンタジー・SF・学園と後になるほど多要素になる見込。

それでは、お楽しみ下さいませ。

SNS関係は以下のURLからリンクしてください。

<http://www.sjord-hd.com/>

0・0 謝辞と某出版社風の登場人物などの紹介（前書き）

とりあえず、初めての執筆ですが出来るところまでがんばってみます。

0・0 謝辞と某出版社風の登場人物などの紹介

謝辞と某出版社風の登場人物などの紹介

皆様、お初にお目に掛かります方ははじめまして。

SNSなどからお越し下さった方は毎度有り難うございます。

本日も仕事大好き継続中でロンドン在住のTony Lewisと申します。

まあ、日本名は公文書でしか使ってませんので呼ばれることも年に数回になっちゃいましたけどね。知り合いはみんなトニーさんと呼んでますんでそちらでなれて頂ければさいわいです。

今現在は、現地のIT機器販売店の主任技術者・電気技師・日系不動産屋など相当幅広くやっております結構引つ張りだこだったります。まあ、昔からロンドンにはIT技師の給与は日本より大分良いんですが最近若者が増えてきましたので中級以上の人は高給取りという状況に変わりましたね。まあ、私は個人的にIT関係を主幹に据えたくない人なので、もう少ししたら一部得意な金融関係に切り替えるかもですけどね。

そんな近況話はとりあえず置いて、この話の説明をば。

この作品は、基本的に私の経験に基づいたフィクションとノンフィクションを混ぜて記載しています。ですので、どこまでが真実でどこまでが本当か推理するのもある意味おもしろいかもしれないで

すね。

あと一つ前置きなんです、私どうも感情がよく理解できない人でしてなんで情景描写と感情描写が壊滅的になってるのはご容赦くださいませ。何分、経験に基づく記憶でしか補完できないのでどうしても壊滅的になっちゃうんですよね。あと、感情の記憶と悪い思い出の記憶が勝手にどうも消えてってる節がありますんで描写が変になってたらすみません。言って頂ければ訂正しときますんでよろしくです。

それでは、長くなりましたが、私の作り出す世界を見物して頂ければと思います。

それでは、どうぞ~~~~!!

このページはたまに更新されます。

ちなみに、気まぐれで書いていきますので人気具合(???)に応じて投函間隔変わるかもですね。まあ気まぐれで書いてますんでそこはご了承下さい。、

~~~~~  
登場人物紹介      順不同

・ 正体不明の三人男性

奥に座つてた人が部屋の主・二人は秘書的な存在。  
長年の付き合いで中はとてもいい。

・Tonyさん(トニーさん)

仕事狂のロンドン在住日本人。

何か裏設定もあるようだが・・・。

・沼さん

トニーさんと十年来の親友である。

良く話すのは習慣と化している。

0・0 謝辞と某出版社風の登場人物などの紹介（後書き）

うう〜ん。本編登場まで登場人物かけないのはつらいねえ。

0 : i P r e l u d e (前書き)

本編が始まる25年ほど前のお話。

## 0・1 Prelude

とある夕暮れ時の一室で見るからに上等な着物を着た三人の男性（？）が白鷺紋の彫り込まれた特注品の執務机に向かい各々の雑事をこなしている。

ふと、部屋の一番奥に座っていた中性的な顔立ちをした人物が筆を置き、手元の懐中時計で時間を確認すると、左右前方に腰掛けた二人に話し始めた。

「今日も、もうそろそろ定時だねえ。」

左前方の机に座っているコレと言って特徴のない普通の男性がおもむろに口を開き、

「だなあ〜」

と気の抜けた返事を作業を続けたまま、つぶやくのであった。それを気にもとめず、最初に会話を始めた男性はそちらに顔を向けると会話を開始した。

「私も君らも明日から休暇だけど何か予定は結局決まったかい？」

左前方の男は顎に手をやり、しばし考えた後にこう問い返した。

「そっちは、なんか決めたんか？」

そういっただろうと思っていたと思しき微笑みを漏らした後に男はこう答えた。

「久々に下に行ってみようかと思う。」

すると、今まで黙っていた右前方に座る顔立ちの整った男性がため息を漏らしながらあきれたように筆記具を机のペン差しに立てるところ切り返した。

「同僚が何人も殺られたのに本当に行くんですか？」

「何か問題でもあるかねえ？」

「おまえなら問題ないとは思うが・・・」

「だなあ、何も問題は起きないだろうさ。」

右と左からそれぞれに返答をもらい、苦笑いを浮かべた後、右前の男からこう切り返された。

「たださあ、おまえ何しに行くの？ あんな所へ？」

すると、男は簡潔にこう答えた。

「そうさねえ、いろいろと実験してみたいこともあることだし、それにあそこはおもしろいしねえ。実験と物見遊山と休暇を全部やってみようかなあ〜と思ってねえ。」

「確かに、俺の好きな鉄道も種類多いし、お前さんが好みそうな娯楽にもことかかないなあ。」

「確かになあ〜。あそこで声優にでもなってるのんびり休暇するのも

いいかもなあ。」

「そそ、まあ救いようが無いが、救ってもいいかっていう決裁も上から以来きてるしねえ。まあこっちはついでだけどね。」

左の男性は少々あきれたようにこう切り返した。

「本当に思えさん仕事狂やなあ。ある意味尊敬するわ。」

男も笑いながら、

「まあ、仕事に興味だしねえ。というより少々は仕事してないと落ち着かないんだわさ。」

「本当にあきれるくらい仕事好きやなあ、お前さんは。」

「でも、それだからこそ、あの方の右腕まで上り詰めたともいえるけどなあ？」

「だわなあ。俺もお前も未だにお目通り願えた事皆無だしなあ？」

すると、見守っていた奥の男は驚いたようにこう返した。

「あれ、そうだったか？」

「ああ、用もないし。取り次いでももらえんしなあ。」

「だわなあ。」

この答えにさらに驚いた奥の男性はこう答えた。

「じゃあ、この後会いに行くか。休暇届出さないとだしさ？」

疑問を浮かべた顔で右の男はこう返した。

「あれって、総務に出しとけば問題ないんじゃない？」

「ああ、良いの良いの。どうせもう遅いから上に直接上げないと承認取れないしさ。」

「あとこの後。一緒に飲みに行く約束もしてるんだわ。だからいいのさ。」

この発言に二人はあきれながらも、少々興味を引かれたようでもう言った。

「うん。せつかく上役に会えるんだし顔売つとくか。」

「そういえば、そうだなあ。」

二人はある意味で意気投合し奥に座る男に同行の節を願い出た。

「そういえば、二人は結局どうする？ 私はとりあえず休暇届は書けるんだけどさ？」

「そうさなあ、あそこもたまにはいいか。」

「だなあ。」

そういった後に二人は机の筆を取り、奥に座る男と同じ行き先へ

行く事に決めた休暇届を書出すのであった。しばらくして、書き終えた二人は、手早く残りの仕事を片付け、各々の机の後ろに設置されたアンティーク調の棚から鞆を取り出し上役の部屋に向かう準備を始めるのであった。ちなみに、この二人。渡した後の居酒屋への付き合いは固辞したそうなの。

こうして、この場所で一緒だった三人は彼の地においてお互いを知らない状態で再開する事になるわけだが、今は奥に座り物事を仕組んだ上役の右腕の男しか何も知らないのであった。

余談だが、休暇届を持ったまま居酒屋に二人が乗り込み手続きが当日朝になつたばかりか、処理する時間が足りなかつた理由で記憶の継承が不完全になつてしまったのは、しばらく後になつてから発覚する事実なのであった……。

## 0・i Prelude (後書き)

プレリユードだけでは困るので、  
できれば今週中に本編一話を掲載します。

1・1 ハプニングは突然に 前編（前書き）

なんとか同日にあげました。

ただ、長くなりそうなので後編に分けます。

1・1 ハプニングは突然に 前編

1・1 ハプニングは突然に 前編

〔成田空港 第1ターミナル 出発便案内 午前九時時点〕

定刻：午後六時発

航空会社：ユナイテッド航空

便名：UA882

行き先：シカゴ（ORD）行

備考：定刻

\*\*\*\*\*

その日は、毎回の滞在時同様に朝七時に起床・朝食を取った後に、我孫子駅へ親友と共に歩いて三十分ほどかけて駅に到着した。前もってチャージしておいたSuicaを使って入場したのであった。

「そっちは、常磐線かい？」

「だなあ、月曜から会社は休めんわ。」

「確かになあ。とりあえず、私は成田線だから行くわ。」

数歩歩いた後に思い出してこう言った。

「しかしまあ、今度来る時こそは我孫子駅名物・唐揚げそばを攻略したいもんだわさ。こないだは大きすぎて想定外だったからねえ。」

「確かに、初めてであれば厳しい話なあ。まあ次があるわな。気長にやればいいさね。」

「だねえ。どうせ次来るときも我孫子に泊めてもらうつもりだしねえ。とりあえず、さよならだわな。沼さんの電車来るみたいだしねえ。」

「おお、そうだな。じゃあ、また。」

「ほい。」

そして、私は成田線のホームに降りていき、常磐線ホームの親友に手を振るのであった。

それから十分ほどして、入線してきた成田線・成田行き電車に乗り込み早四五分。電車は無事成田に定時到着。

十分ほどして来た成田空港行きの電車に乗りさらに十分。

これにて成田空港・第1旅客ターミナル到着。

改札口を出た後は、身分証明書の確認と手荷物検査を通過。

今回利用するのはユナイテッド航空なので一路、南ウィングへ。そして、右方向にあるエレベータに乗って四階国際線出発ロビーへと到着。

そして、私はエレベータを出て左へ向かう。  
とにかく左へ向かう

突き当たりに着いたら右に折れ、空港宅配の受け取りカウンターで  
預入荷物を受け取り、カートに載せるのであった。

ちなみに、帰国時にここまで持つてくるとJALABCさんは百  
円ほど割り引いてくれますよ。ただし、伝票は手書き要。あと、次  
回からの割引券の入手もお忘れ無きよう。

(しかしまあ、さすがに早すぎだねえ。まだ十時だし・・・)

しばし考えた後・・・

(いつも通りにしますかねえ・・・)

昔は、隠れスポットとして銀だこが五階にあったのだが経路が二つ  
しかなく行きにくい穴場であった。

しかし、それが災いして閉店してしまったという逸話を持っていた  
りする。知らない人は来れないのしょうがないのかもしれないが、  
未だに残念である。

来た道をまっすぐ引き返し、フードコートへ突入する。

そして、そのまま右手のエレベータで一階上へ。

そのまま右奥を目指して通路を曲がり、突き当たりのファーストフ  
ード店に到着するのであった。

このフードエリアは座席が店舗共有型なので実質管理者がいない  
のである。なので、すいてるこの時間に利用させて頂くのであった。

とりあえず、席に着きノートパソコンを起動し、いつも持ち歩いているE-MobileのMifiを起動し、インターネットをしてチェックインカウンターが開く正午までをのんびり過ごすのであった。。。。

そして、正午にチェックインカウンターへ向かう。

今回は運良くファーストに乗れることになったのでてきばきと搭乗手続きを開始しましょう。

まずはチェックインカウンターに着くと同時に従業員にパスポートを個人情報記載されたページを開いて提示する。

成田空港では自動チェックイン機を使うのが一般的だが私は全く使ったことがない。この理由は簡単でシカゴでの乗り継ぎの航空便を同会社なのだが金額の関係上で別に取っているのだ。ただ、これは電話デスクなら発生しない問題である。

実は、別に取らなくても安いチケットを発売できるかららしい。予約設備自体も古くからの物を使っているので実際に使ってみるとオンラインより便利に使えるのである。あと、お気に入りの人を作ると友達づきあいもできるし、好みを覚えてもらえるので二重にお得だったりする。

ただ、あくまでも一例であり時期により違つので見比べてみるのをオススメする。

最近まで、ハワイの日本語デスクに友達がいたのだが転職になつてしまったのでそれからはしょうがなくオンラインで取っているというわけである。

ちなみに、オーバーブッキング時は航空会社直通は最優先扱いされ、次に旅行代理店となる。なので、オンシーズンの混雑便で確実に席がほしい際は航空会社に直接の方が無難ではある。ただ、そう頻繁にオーバーブッキングにならないのが常なのであまり気にしなくてもいいのかもしれないが、私は一度だけそうなった人を見たことがあるのでそれからは余計にそう思っているのだ。

さて、そんな事を思い出しているうちに発券も終了したので通常の手未持つ検査場の左前に見て右前に見える待合エリアを目指す。そして、その左正面突き当たりにある受付へ向かうのであった。。。

「いらつしやいませ。招待券とパスポートを拝見します。」

私は前もって用意してあった二点を確認しやすいように個人情報ページを開いた状態で渡すのであった。

では、この場所について少し解説しよう。ここは上客用の手荷物検査場である。ここを利用するにはファーストかビジネス（航空会社による）もしくは、全日空のエリート資格が必要である。いつも思うのだが、全日空だけ融通されるのは不愉快だったりする。ちなみに、ユナイテッドでは、ファーストと最上位のグローバルサービスの会員のみ利用可能だ。ただ、小耳に挟んだ話に寄ると使用料はワンコインらしいのでサービスしてくれないかなあといつも思うのであった。

さすがに、正確な金額はまずいので省略。

そんな事をしている内に確認を終えていたようである。

「有り難うございました。いってらいしゃいませ。」

「どうも〜。」

そして、そのままネクタイピンやカフスをはずし、ノートパソコンをトレイに載せ、上着や帽子も載せるのであった。

アメリカほど金属感知器が繊細でないのでベルトは大丈夫であった。もちろん、物に寄ります。

私は、そのまま木製の綺麗な金属探知機をくぐり、衣服を整え、荷物を検査場を後にするのであった。

さて、その後は出国審査である。私は無人審査を登録してあるのでこちらへ向かう。数年使っているが一度も並んだことがない。これが出来てからは入国審査は楽になった。

前は三十分以上よく並んだものだが、これが出来た後は最短四十分でゲートから預け荷物受取場に到着するという快挙を成し遂げたものである。ただ、それなりに利用しないと登録できないので要注意である。

普通ならその後はユナイテッドのラウンジに向かうべきであるが私はこちらへは向かわない。これには理由があるのだがそれは後ほど語るとしよう。

そんなこんなで一本道を突き進むこと五分ほど。ゲート七十二が見えてきた。このの最寄りにあるエスカレーターで上へ上がる。ここは全日空ラウンジである。

実はスターアライアンスメンバーの航空会社なのでこのラウンジを使うかは自由だったりする。もちろん使用権限が必要なのは当然である。

いつも通りに航空券を差し出し、入場すると同時にシャワールームを予約するのであった。

では、この後は会話を少々。  
座席を見つけ、座ってしばらくすると……。

「いらっしやいませ。お飲み物はいかがですか？」

「では、ジンジャールをライム入りで。」

そうまずはこれである。なんと、一杯目だけ飲み物をついでくれるのである。さすが、全日空である。

ちなみに、競争率の高い全日空なので綺麗床が多いのはある意味でお約束である（笑）

そしてもう一つ実はある。

それは、うどん・そば・丼物が無料で何杯でも食べられるのである。私はいつも昼と夕食はここなので手慣れた物である。ちなみに、で

きたてなのでそれなりにおいしいのもお約束だ。海外に帰る前の記念的な意味合いでいつも食べるわけである。

そして、それを食べ終わった頃にシャワーが空いたそうなのでそのまま入る。私の場合、フライト前にシャワーを浴びるのにはまってしまい結構頻繁に使っている。

だまされたと思って使ってみるとこれが結構快適なので驚きである。私的に女性陣の感想を聞いてみたいのだが誰かと旅行しないので未だに分からず仕舞である。本当に聞いてみたいものである。レディースアメニティーもあるのに残念である。ちなみに、フライトの1時間より前に入っていないと従業員が呼びに来ることもあるので要注意である。

このラウンジでは全日空しかアナウンスはされないので湯要注意。また、シャワーはフライト四十分前までしか使用できないことが多いので注意。

\*\*\*\*\*

〔成田空港 第1ターミナル 出発便案内 午後四時半時点〕

定刻：午後六時発

航空会社：ユナイテッド航空

便名：UA882

行き先：シカゴ（ORD）行

備考：出国手続中

\*\*\*\*\*

しばし、シャワーを浴びた後に軽食やネットサーフィンを楽しみ、いよいよ五時になった。ふと成田空港のホームページを確認してみると・・・。

\*\*\*\*\*

↓成田空港 第1ターミナル 出発便案内 午後五時時点↓

定刻：午後七時発

航空会社：ユナイテッド航空

便名：UA882

行き先：シカゴ(ORD)行

備考：時刻変更 (整備遅延)

\*\*\*\*\*

調べたところ、どうもエンジンに問題が見つかって整備をすることにしたらしい。しょうがないのでこのまま待機である。

そして、この後にハプニングが起こるのだが、この時の私はまったく知らないのだった。

1・1 ハプニングは突然に 前編（後書き）

10人見れば言い方と思ってましたが

20人以上のアクセス有り難うございます。

うう〜ん。後編のシナリオどうしようかなあ〜。

1・2 ハプニングは突然に 中編（前書き）

手をやけどして手が動かさなかったため投函遅れました。

## 1・2 ハプニングは突然に 中編

Chapter：? 　ハプニングは突然に 中編

　成田空港 第1ターミナル 出発便案内 午後五時時点

定刻：午後七時発

航空会社：ユナイテッド航空

便名：UA882

行き先：シカゴ(ORD)行

備考：時刻変更 (整備遅延)

\*\*\*\*\*

気になって調べたところ、どうもエンジンに問題が見つかったために再整備を実施することにしたらしい。こういう事はあるときはあるのでしようがないとあきらめるしかない。今回の渡日時にワシントンD・Cからシカゴまで乗り継ぎをしたのだがそのときもエンジン異常で一時間ほど出発が遅れたのである。後から聞いた話ではあるがその際の故障箇所はエンジンのスターターだったらしい。本当によくトラブルに見舞われる主人公である。

そんなこんなで、さらに二時間過ごす羽目になってしまったため、またネットの巡回をしたりドリンクやおつまみを食べたりしてのんびり過ごすのであった。これは余談だがこのラウンジもちろん通常のドリンク・スナックスペースもある。なので食べ飽きることは比

較的に少ない。ただし、それはあくまでも二時間以下しか使用しない過半数の利用者についてである。もちろん、私のようにラウンジで半日生活している人は論外である。

しばらくして、ふと今回の違約金（？）の支払いの件がふと頭に浮かんだ。航空会社にもよるが長時間の遅れや預け入れ荷物の破損が発生した場合は自社割引券や新しいスーツケースをくれたりする。ただし、会員資格のランクによりここの対応はまったく異なる。ここで一例を出してみよう。

昔、ヒースロー空港で預け入れ荷物を受け取った際にスーツケースが割れているのが発覚した。それを受付に申告したのだがどうも対応が悪い。すごく嫌々対応しているのが丸わかりだ。この時の私のフライトはエコノミークラスを使用していたのだがどうもそれが原因らしい。三十分ほど待たされても全然埒があかない。このままでは数時間かかること必須である。

そこで私は昔、航空会社の知り合いに聞いた話を思い出した。

『何か困ったことがあれば、会員カードを出してみてくださいね。』

私は今更ながらにそのことを思い出し、現在担当している人に見せてみた。すると?!

『失礼致しました!こちらへどうぞ。』

見ていておもしろいくらいに態度が一点。即応を開始する担当者。

この時私が見せたカードはエコノミーでも乗りまくれば手に入れられる資格の最上位1Kであった。  
この時に手に入れたスーツケースはもちろん無料。そして、航空会社の社員も使っていると説明された通りすごく丈夫であった。ただ一点、車輪だけは軟弱だったが……。そんなスーツケースであるが何年もたった今も所々が削れはすれど現役といういい買い物なのであった。ちなみに、成田でも依頼したことがあるのだが、そのスーツケースは一回のたびに壊れたのは苦笑い必須の話である。

そんなこんなでさらに時間は過ぎ、再び出発情報を確認してみると表示が変わっていた。それによると……。

\*\*\*\*\*

↳ 成田空港 第1ターミナル 出発便案内 午後六時半時点↳

定刻：午後八時発

航空会社：ユナイテッド航空

便名：UA882

行き先：シカゴ(ORD)行

備考：時刻変更 (整備遅延)

\*\*\*\*\*

なんと驚異的な事にさらに遅延していた？！

さすがに、これは何かあると思い電話を取るのであった。

ちなみに、ユニテッドのラウンジでは03番号とフリーダイヤルは無料で何分でも話せる。私はこれを利用して03番号の無料国際電話を使える番号へ電話して国際電話をかけたたりもできたりする。しかし、今回はSkypeを使うことにした。たまたまヘッドセットを持っていたのもあるがアメリカのフリーダイヤルにかけるのが無料だからである。

そして、Skypeでハワイにあるユニテッド航空の予約センターへ電話を入れ、予約系の友人につないでもらうのであった。

「ほいさ、調子どう？」

「ぼちぼちだねえ。そっちはフライトまだなの？」

「それが機体不良で遅れてるんだわ。ちょっと細かいところからない？」

「ちょっと待ってねえ。見てみるから。」

しばし、保留音が流れそれも終わり広告が流れ出した頃に保留は終わった。

「お待たせ。どうもエンジンの不具合が見つかって修理してるみたいよ？」

「なるほどねえ。それじゃしょうがないねえ。ありがとう。」

「いえいえ、どういたしまして。」

「今度またハワイ行ったらまた三人で飲もうよ。久々に。」

「いいねえ〜。楽しみにしてるよ。」

「ほいさ、じゃ仕事で悪いしこのあたりで。」

「はいはい。またねえ〜。」

そして、通話は終了し現在やっと理由の再確認ができた。基本的に地上の受付スタッフは大まかなところしか知らない。なので、細かいところを知りたいとなるとコネでもない限り不可能である。私の場合、予約系の友達が仲がいいので確認してくれたが普通はしてくれない。やはり友達がいいものである。

電話も終わりましたのんびりしていたわけだが出発便情報のホームページを再度更新してみると表示がまた変わっていた。それによると？

\*\*\*\*\*

〜成田空港 第1ターミナル 出発便案内 午後八時時点〜

定刻：午後十時発

航空会社：ユナイテッド航空

便名：UA882

行き先：シカゴ（ORD）行  
備考：時刻変更（機体変更）

\*\*\*\*\*

どうやら読み返してみた限りではいくら修理しようとしても全然直らないのであきらめて格納庫から代替機を出してきて準備することにしたようである。ただ、格納庫から出してくる際は牽引車で引いてくるのだがこれがすごく時間がかかるのだ。後々思い返してみれば、今回は一時間ほどかかった。ただ、すでに定刻から六時間近く遅れているのである。今更ちよつとの事では馬鹿らしくなってしま動じない。しょうがないので腹も再び空いてきたのもあったので軽食スペースへ再度お邪魔した。

「かき揚げ蕎麦一つ。」

すると初老の店員さんは番号札を渡し、黙々と蕎麦をゆで始めるのであった。もう何回も頼んでいたため説明もなかった。

「一番さん。」

自分の番号札の番号を呼ばれたので調理場の窓（？）的な場所へ再度お邪魔し、札を返却した後に念願のかき揚げ蕎麦を入手するのであった。そして、てきぱきと食を済ませた後に再度窓（？）カウンターにお邪魔して今度は。

「親子丼、一つ。」

初老の男性は特に表情を変えすることもなく、今度は電子レンジで親子丼の元を暖めだした。先ほどの蕎麦はゆでていたのでいいが、親子丼はご飯以外レトルト丸出しである。ただ、それでもレトルトも比較的においしい日本なのでおいしくいただいた。

そんなこんなをしているうちにも時間という物は進むわけでスーツの右ポケットの中にある懐中時計用になっている内ポケットからもむろに取り出してみた懐中時計は九時十五分を指していた。

ユナイテッド航空では搭乗手続きは基本的に出発四十五分前に始める。これは大体どこの航空会社でも似たようなものだが小規模空港や格安を除く大手航空会社は大体同じだ。

そして、時間も時間なので出発情報の最終確認を試してみた。

\*\*\*\*\*

↳ 成田空港 第1ターミナル 出発便案内 午後九時時点↳

定刻：午後十時発

航空会社：ユナイテッド航空

便名：UA882

行き先：シカゴ（ORD）行

備考：搭乗手続き中

\*\*\*\*\*

空港に着いてから早十時間、本来の定刻から四時間ついに……ついに念願の飛行機に乗れるようである。長かった。本当に長かった。やっと飛行機に乗れる。少々ご機嫌斜めだった私は機嫌を取り戻し、ノートパソコンを片付け、受付に挨拶を交わし、『いつてらっしゃいませ』というこの時間になっても元気な受付嬢たちに見送られラウンジを後にしたのであった。

五分ほど歩いて、いつものゲートについた私はてきぱきと顔写真のページを見えるように開いたパスポートに航空券を追記のページに置いた状態です。すでに誰も並んでいなかった赤い絨毯の上を進み、最優先でID確認と半券の受け取りをしたのだが警備員風の人にすぐ声をかけられた。

「すみません。」

なんだろうと訝しみながら私は振り向き。

「はい？」

と疑問を投げかけた。

すると警備員風の二人組はこう切り出した。

「手荷物検査にご協力をお願いします。あとパスポートと航空券の提示をお願いします。」

どうやら、通常時はファーストやビジネスの乗客には声をかけないのだが、すでにエコノミーの搭乗が始まっていたのもあり確認を求められたようだ。ごねてもしょうがないので素直に応じるのであった。そして、どうやら本当に空港警備員だったらしい二人は確認

の後のおきまりの、

「ご協力ありがとうございました。」

と幕を閉じるのであった。

その後は特に何もなく、飛行機の入り口で半券の座席番号のところに目印をつけて左へ折れ、三列目窓側の座席に赴き手荷物を収納棚にしまいこみ、座席に備え付けられた靴下を靴下の上からはき（単体では薄すぎるため）スリッパに履き替えるのであった。しばらくすると、

「こんばんわ。チーフパーサーのアリスです。飲み物をどうぞ。」

これは、ファーストとビジネスのみのサービスだが、いわゆるウェルカムドリンクである。私はここで先日のフライトで教えてもらった飲み方を思い出した。一様、水・オレンジジュース・シャンパンと選択肢があるがこれは裏技である。

「では、シャンパンとオレンジジュースをミックスで。」

私も最初は半信半疑だったのだが、勧められたのでたまさかと思っただけで飲んでみると以外においしかった。それから毎回これを頼むようになったのであった。

しばらくすると、ドリンクが届けられたのでその際に手帳とペンだけ向いて五キロはある重いスーツの上着を預け、日経新聞を頼んだ。旅行中、私のスーツの上着はとても重い。財布やパスポート、時計などと同時に、日英の携帯電話がそれぞれ入っているのが理由らし

いのだが何ともとはほな理由である。

そんなこんなで全ての準備が整ったのだが新聞はまだだった。あ  
の後、しばしの後にアリスが来たのだが在庫切れらしい。さすがに  
遅く搭乗したので自業自得である。とりあえず、空きができれば持つ  
てきてくれるそうなのでお願いしておいた。

そして、しばしたち先ほど届いた新聞を片手にドリンクを飲んで  
いたのだがやっと機長のアナウンスがあった。

「ご搭乗の皆様、大変長らくおまたせ致しました。当機はまもなく  
出発致します。お座席にお戻りの上、シートベルトを惜しめ下さい。

」

\*\*\*\*\*

〈成田空港 第1ターミナル 出発便案内 午後十時前時点〉

定刻：午後十時発

航空会社：ユナイテッド航空

便名：UA882

行き先：シカゴ（ORD）行

備考：搭乗手続き終了

\*\*\*\*\*

その後はマニュアル通りな非常時の説明の後は滑走路へ向かうのであった。ただし、ここで新たな問題が発生する。それはちょうど滑走路の手前で完成が地上からタワーに移った少し後の機長によるとこういう事らしい。

「お客様にご案内致します。成田管制に遅れる節を通過していたのですが正しく伝わっておらず、タワーの管制官が帰ってしまったため本日は飛べません。当機はただ今よりゲートに戻ります。お急ぎのお客様には大変なご迷惑をおかけ致しますがあらかじめご了承下さい。ゲートへ到着の後、本日の宿泊場所の手配を致しますので機内にてしばらくお待ち下さい。」

空港に来てから早半日。もつため息もでなかった。

\*\*\*\*\*

〔成田空港 第1ターミナル 出発便案内 午後十時過時点〕

定刻：午後十時発

航空会社：ユナイテッド航空

便名：UA882

行き先：シカゴ（ORD）行

備考：キャンセル

1・2 ハプニングは突然に 中編（後書き）

後編は極端に短くなる見込みです。

1・3 ハプニングは突然に 後編(前書き)

やっとできましたねえ。  
お楽しみあれ。

## 1・3 ハプニングは突然に 後編

Chapter：? 　ハプニングは突然に 後編

　成田空港 第1ターミナル 出発便案内 午後十時過時点

　定刻：午後十時発

　航空会社：ユナイテッド航空

　便名：UA882

　行き先：シカゴ(ORD)行

　備考：キャンセル

\*\*\*\*\*

あれから数十分の時間が経ち、ゲートにも戻ったわけであるがその後の指示がまったくなくさらに数刻も過ぎた頃。

あれから一時間経っているわけであるが、特に何も進展がない。ただ、機内エンターテイメントが全面利用可能になったのでしようがなく映画を見てるのであった。長距離フライトではよく二作品ほど映画を見るのだが、地上では原則利用できない。なので、少々、貴重な体験が出来ているわけであるがまったくうれしくない。

先ほど小耳に挟んだ事情によると、どうも管制塔が閉まるぎりぎり

りで離陸できる予定だったらしく、その節も管制塔に事前連絡していたそうだが、周辺住民との規定による運用時間帯協定の時間を過ぎていなかったのだが、管制官が連絡を受けておらず、早めに仕事を切り上げてしまったのが原因らしい。まあ、連絡ミスが元々の原因ではあるが管制官が早退したのも重なった不運ともいえるのかもしれない。これが日系航空会社なら乗客が暴動を起こすかもしれないが、こういった事に比較的なれている米国航空会社の乗客となると特に何もない。不満はあるかもしれないが前提条件として機体が故障するのは普通という認識であり、これぐらいでは特に激怒ということはめつたには起きない。また、出発遅延に関する補填金の支払いと宿泊施設の手配・振替便の手配などが日系航空会社より手慣れておりすぐに手配でき、対応もいいのが理由である。こういう所が日系航空会社の不具合がないのが当たり前主義と不具合があっても当たり前主義の根本的な違いなのかもしれない。

また、主観ではあるがフライト時間も米国系の方が多いことも多く、緊急事態発生時の対応も手慣れているのも安心出来る点なのかもしれない。

\*\*\*\*\*

あれから更にしばらく起ち、やっとアナウンスがあった。

『お待たせいたしました。準備が整いましたので順番にご案内申し上げます。』

どうやらやっとホテルが決まり、寝れるようである。今日はもう疲れすぎ、明日も同じ時間にフライトになるはずであるので早く寝

たい気持ちいっぱいである。

その後、呼ばれたので飛行機を降り、指示の通りに国際線乗り継ぎ用荷物検査場前ホールに行ったのだが、旅行代理店の担当者しかおらず、航空会社の担当者は到着ロビーにいますという話だった。仕方がないので入国審査場までそのまま進み、自動化ゲートへとすすむ。自動化ゲート使用者のため今回も待ちはなく、てきぱきと再入国手続きを終了した。今回は異例のため出国申請をマニュアルで解除するため有人対応となった。

今回は欠航や大幅遅延に伴い、翌日に振替られるため基本的に、預入荷物は返却されない。若干理不尽に思うかもしれないが、空港施設使用料や大人の事情があったりするのでしょうかと思うしかないのであった。

そんなわけで、到着ロビーまで鞆一つで辿り着いたわけであるが、誰も職員らしい人物がいない。これでは、聞いていた話と違う。ただ、まだ誰も出てきていないので少々は待ってみるべきかと思いい、しばし待ってみることにしてみるのであった。

\*\*\*\*\*

到着ロビーの一角にて発見したソファに座り、待っていると同じ境遇の人とも知り合い、しばしの間待つのであった。

\*\*\*\*\*

しばらくすると、やっと担当者らしき人物が回覧板のようなバイ

ンダーを持って到着ロビーに現れたので状況説明を求めたのだが、返答は少々予想外のものであった。

『えっ?? 確認して参りますのでしばらくお待ち下さい。』

そんなわけで、ホテルの手配がまったく行われていないことが判明し、さきほど知り合った6人ほどの人たちと共にさすがに今回は軽く激怒して、係員にクレームを出すのであった。

\*\*\*\*\*

それからまた、三十分ほどしたところ。ようやく空いているホテルが見つかり今夜の宿も決まり、案内されて、バスに乗ったわけだがぜんぜんホテルに着かない。かれこれ一時間近くバスに揺られているわけだがまだ着かない。そして、バスはなぜか首都高に入り、赤坂で降りるのであった。

そして、結局最終的に辿り着いたのは赤坂のホテルであり明日の出発が少々心配になるのであった。その夜はもう、荷物整理用に広めの部屋をもらい、ルームサービスしか空いていないので夕食をルームサービスを食べ、風呂に入ってメールチェックをしてさっさと眠るのであった。

ホテルチェックイン：深夜零時

就寝：深夜一時頃

本当に生産性のない、災難な一日であった。

### 1・3 ハプニングは突然に 後編（後書き）

結局今回は、ほぼ真実のストーリー。

ホテル代・飲食費（一部）は負担していただきました。

ただ、空港への送迎バスは時間確認忘れて逃すのでありました。  
次話より次章に入り、がらっと変わる予定。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3663y/>

---

ある人物の実験と生涯 (仮題)

2011年11月26日01時52分発行